



《将来に向けた取組方針》

富士電機は、エネルギー・環境事業で持続可能な社会の実現に貢献していくことを経営方針の柱に据えています。2019年に策定した「環境ビジョン2050」にて「自然共生社会の実現」を掲げ、事業ならびに地域貢献活動による生物多様性への貢献、自然資本の保全に取り組んでいます。近年は、TNFDの枠組みに基づく自然資本に関するリスクと機会の評価がますます重要性を増しています。この自然資本に関する取組みと、これまで進めてきた気候変動に関するTCFDに沿った取組みを統合的に捉え、自然・環境課題に対するリスク・機会を適切に評価し、対応することにより、継続的に生物多様性の保全を進めてまいります。

《環境ビジョン2050》

富士電機の革新的クリーンエネルギー技術・省エネ製品の普及拡大を通じ、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現を目指します

脱炭素社会の実現 サプライチェーン全体でカーボンニュートラルを目指します

循環型社会の実現 ライフサイクル全体で環境負荷ゼロを目指し、グリーンサプライチェーンの構築を推進します

自然共生社会の実現 企業活動により生物多様性に貢献し生態系への影響ゼロを目指します

《具体的取組み事例》

地域の森林を育てる「里親活動」

安曇野地区では、「森林（もり）の里親活動」として、刈払機での下草刈りやチェーンソーでの木の伐採を毎年実施。参加者からは貴重な体験ができて楽しかったとの声が多く寄せられました。



「あいち生物多様性認証企業」として認証を獲得

中部地区では、地域のNPO法人と連携した耕作放棄地の開拓活動を定期的に実施。2023年11月に愛知県知事より「あいち生物多様性認証企業」の認証書をいただきました。



苗木に込めた地球への想い 「マングローブの植林活動」

タイでは、2024年4月に従業員63人が参加して海岸沿いへマングローブの苗木を植樹。周辺のゴミ拾い活動と併せて、環境保護の大切さを肌で感じる貴重な体験となりました。



《自然環境の保護に向けた取組み》

- ・森林保全活動
- ・生物多様性保全活動
- ・海洋・河川の保全活動
- ・里山再活動